

環境にやさしいまちづくり

福井県越前町

—EMで生ごみリサイクルと水の浄化活動—

木下美恵子

朝日生ごみリサイクルネットワーク会長



越前町の紹介

私達の住む越前町は、平成の合併により朝日町、宮崎村、織田町、旧越前町が合併し人口約24000人の住む越前町として誕生した。

「人と技 海土里織りなす快適なまち」を基本に誇りの持てるふるさとづくりを目指している。

西には日本海、越前海岸では全国的に有名な越前蟹、越前水仙をはじめ、里山ではきれいな山水で作られるコシヒカリ、野菜、山菜がとれる豊かな自然に恵まれている。

毎日のように出る生ゴミはやっかいもの、可燃ゴミとしてゴミステーションに出せば簡単。今から15年前の事、集落のゴミステーションに持ち込まれた重いゴミの山を見て疑問に思った。焼却すればCO₂、ダイオキシン等不安が一杯、まず足元から出来る事から始めようと数人で立ち

上がった。



栃川学習会

運動のきっかけ

区長さんをはじめ、各種団体に呼びかけ環境問題についての学習会をした。講演の中でEMとの出会いがあり数日後、「栃川ボカシ96会」が誕生した。あれこれ失敗を重ねながら体験を積み、生ゴミの減量化が見えはじめ輪が広がって来た。それから10年が過ぎ、平成17年10月の町村合併を記念して、宮崎地区で越前環境フェアが開催された。「甦る地球環境」と題しての比嘉照夫先生の講演は私達を熱くした。平成18年3月「朝日生ごみリサイクルネットワーク」誕生。183人の仲間となり活気が出てきて5年が経過。朝日地区2500世帯にその輪が更に拡大してきている。



町の全景



設立総会

活動の内容

①実践活動

ボカシ作りの講習会を役員が出向いて実践、グループ、集落町内、団体の養成に積極的に対応。大量のボカシ作りには、マゼラーの貸し出し、密閉バケツでの生ゴミ処理説明。普及活動に力を注いでいる。



家庭菜園作り

生ゴミの堆肥化によって有機肥料、農薬無しでの野菜は安全で安心できとてもおいしいと、みんなはニコニコ。

②協同畑で野菜作り



理事で約1反の畑を協同でジャガイモ作り。植え付けから収穫まで大変だが みんなですのでワイワイと楽しい。収穫したものは学校給食へ納めるので力が入る。

③学習会

総会には必ず講師を招いて学習会。県内外より実践家を講師としているので出席者は会場いっぱい。みんな熱心で質問が次から次へと、時間オーバー。



④先進地に学ぶ視察研修会

百聞は一見にしかず、毎年大型バス2台で県内外を問わず視察研修、問題意識を持つての参加者でバスの中は情報交換の最高の場となる。



岐阜県輪之内町



越前市大虫地区

—川や海を守ろう—

台所から米のとぎ汁を流さないように

米のとぎ汁は、そのまま台所から下水に流すとヘドロとなり、合成洗剤を使用すると化学物質が残留する。そこで米のとぎ汁EM発酵液を作り、これを台所やトイレに流せば汚れが落ち、下水管、マンホールがきれいになり川や海の水がきれいになる。越前町では毎月1回EMW100倍液を2000作り、町民が利用出来るようにしている。費用は越前町で予算化、作るのは越前海士里の環境ネットワーク。家庭での清掃、学校のプールの清掃、畑の野菜作りと幅広く活用している。



発酵液づくり全体説明図

①家庭、グループ団体への普及活動作り方、活用の仕方の実践講習会を開く。



グループでとぎ汁発酵液づくり



毎月1回EMW100倍液2000作り。



左上 町民に500ccのペットボトルにつめ配布準備



右上 ペットボトル500CC容器に入れ、町民が誰でもいつでも求められる場所を設置。

環境学習

学校での環境学習への取り組み

① 環境にやさしいプール清掃

朝日小学校（461名）では5年前から5年生になると、環境学習の中で「米のとぎ汁EM発酵液」を使用してプールの清掃を行っている。

学校から米のとぎ汁持参のプリントが家庭に配られると、子供達は2ℓ、1ℓ、500ccのペットボトルに新しい米のとぎ汁を登校時に持参。ネットワークの私達も応援、指導をしにかけつける。子供達と一緒に作る。子供達は意欲的で目を輝かす。



出来た活性液は、プール開きの1ヶ月前に3000投入し清掃。また10月にも3000投入、年2回行う。1年目はあまり変化が見られなかったが2年目からは初めから清掃が済んだ後のようにきれいなのはみんなびっくり。行政、学校、親の理解もあり、定着してきた事を喜んでいる。



② 学校でのトイレの清掃

保健クラブでとぎ汁EM発酵液を作り、学校のトイレの清掃。先生方のきめ細かい指導もあって子供達も前向きな姿勢で取り組んでいる。



活動拠点

会が発足した当時は公民館での会議、ボカシ作りは個人の家の車庫を利用。

いつも気軽に話し合う、相談が出来る場所が欲しいと集まりやすい場所探しが始まった。その結果皆の熱意が実って、待望の場所が見つかった。

5月1日町長にも出席頂き、盛大な朝日店のオープンを迎える。くす玉が割られ大きな看板が揚げられ会員一同喜び合った。今は情報交換、資材販売とみんなのたまり場となる盛況ぶりだ。

店は週2回、火、土曜日開店、あさひ^{うまいち}“美味市”が誕生した。

活動の証である安全安心な野菜、山菜、果物、越前地区からの鮮魚も登場、賑わいを見せている。夏祭りには西川知事も店頭に来られ激励を受ける。理事は決意を新たに前進への取り組みを誓い合った。



朝日店オープン

今後の方向と課題

朝日地区全体で生ゴミのリサイクル運動を始めたが前途は遼遠である。畑を持つ世帯が全員生ゴミを堆肥化し、畑にすき込み安全、安心な野菜作りを徹底的に行う。そのためには町内、集落に理事を増やし、畑を持たない世帯の生ごみには処理拠点を設置する。これには行政にも強く働きかける。水の浄化については町内すべてのプールが発酵液で清掃される活動を強化していきたい。

